



海外研究・交流



サント・トマス大学(フィリピン)の学生と教員が鳥取看護大学に来学されました



鳥取看護大学は、5月29日～31日の3日間、フィリピン共和国のサント・トマス大学看護学部の学生11名と教職員4名を受入れ、研修を行いました。初日は学内見学、理事長および学長への表敬訪問後、午後からは学部長の講演、教員によるサント・トマス大学の紹介、鳥取県に関する講義、ウェルカムパーティーを行い、歓迎の意を伝え交流を図りました。2日目は谷口病院、藤井政雄記念病院、老人保健施設・サンテリオンを見学しました。最終日は、鳥取砂丘、白兔海岸、砂の美術館を訪問した後、クロージングセレモニーとして、一人ひとりに修了証を渡しました。今後も看護について互いに意見交換を行い、両大学の親交を深めていきます。

鳥取大学「グローバル市民育成のための言葉と文化をつなぐプログラム」留学生と交流

鳥取短期大学では、2019年7月2日～4日の3日間、鳥取大学が主催する「グローバル市民育成のための言葉と文化をつなぐプログラム」で来県している17名の留学生を受入れ、日本文化および多文化理解のための学習機会を提供しました。

カルタ遊びや七夕飾りづくり、プログラミング、オリジナルうちわの製作、押し寿司づくり、日本のこどもの遊び体験など各学科の特色を活かした授業を行い、留学生と本学学生が交流を図りました。また、国際交流委員会主催の「中部大発見ツアー」では、青山剛昌ふるさと館および白壁土蔵群周辺を訪れ、古い街並みや中部ならではの食べ物を楽しみました。

留学生との交流を通じた学びの機会は、本学学生にとっても異文化理解ならびに海外への視野を広げるきっかけとなりました。



まめんなかえ師範塾生の活躍

「まちの保健室」を継続・定着させていくために、地域の健康づくりリーダーやボランティアの人材育成を行うことを目的として、平成27年度より「まめんなかえ師範塾」を開講しています。平成31年3月までに第10期を数え、鳥取県内全域から121名が受講しました。講座修了生は、鳥取看護大学「教育サポーター人材バンク」に登録し、ボランティアとして学生・教職員とともに拠点型、準拠点型、出前型、イベント型の「まちの保健室」活動をはじめとする地域貢献活動に、積極的に取り組んでいます。

大学見学会

今年度は、大山町「大山公民館おもと学級」(37名)、鳥取市「美萩野三丁目老人会」(27名)の方々が両大学の見学にお越しになり、学内や新美術館の見学に加え、ミニ講話なども受講されました。グローバルセンターでは、大学見学を随時承っています。お気軽にお問い合わせください。

グローバルセンターをご利用下さい

鳥取看護大学・鳥取短期大学では、個人・団体による大学見学会、講演会講師の依頼、大学の施設利用や教員の専門分野に関するご相談などに随時対応しています。

詳しくはグローバルセンターまでお問い合わせ下さい。

<発行> 鳥取看護大学・鳥取短期大学グローバルセンター 〒682-8555 鳥取県倉吉市福庭854
TEL:0858-27-0107 FAX:0858-26-9138 E-mail:glocal@ns.cygnus.ac.jp

<印刷> 有限会社 矢積印刷 倉吉市宮川町2-36



鳥取看護大学 グローカルセンターだより 鳥取短期大学 Glocal Center

第5号 2019.9.10

くらし未来づくりカフェ in 鳥取看護大学・鳥取短期大学



7月6日、鳥取看護大学1階交流ホールにおいて、倉吉市議会議員と本学学生との意見交換会「くらし未来づくりカフェ in 鳥取看護大学・鳥取短期大学」を開催しました。この会は、学生との意見交換で得た若者の率直な声を議会活動や政策に反映させたいという倉吉市議会の依頼により開催され、当日は、倉吉市議会議員9名と鳥取看護

大学・鳥取短期大学の学生34名が参加し、熱のこもった活発な意見交換を行いました。

はじめに、坂井徹倉吉市議会議員より開会のあいさつがあり、その後、5～7人の少人数に分かれてグループワークを行いました。グループワークでは、倉吉市の良いところや悪いところをあげ、それらを踏まえて若者の目線で理想の倉吉市についての意見やそれを実現するためのアイデアを出し合いました。

各グループの発表では、SNSを活用した自然などの魅力発信や、交通の利便性向上としてレンタサイクルの実施、100円循環バス、経費が割安なワゴン車の運行、牛骨ラーメンなどのグルメを活かしたイベントの開催など、たくさんのアイデアが紹介されました。

会終了後、学生からは「外からみた倉吉の印象を知ることができて良かった」「今後も今回のような機会があれば良いと思う」などの意見があり、議員の方からも「もっと深い議論をしたい」「継続的な開催を希望する」といった意見をいただきました。学生にとって、普段接する機会のない議員の方々とは直接お話しする貴重な機会となりました。



鳥取看護大学・鳥取短期大学と鳥取県教育委員会との連携協力に関する協定締結

7月23日、鳥取看護大学と鳥取短期大学が、鳥取県教育委員会との連携協力に関する協定を締結しました。この協定は、平成28年3月に締結した「鳥取県と学校法人藤田学院の連携に関する包括協定」を踏まえたもので、教育に特化した内容です。

具体的な連携協力事項として、「高大接続」をキーワードとした魅力ある教育活動の推進や学生、生徒、児童等の教育支援および社会貢献活動に関することなど、相互の教育の充実と発展に寄与する取組みを掲げています。

協定式には、鳥取県教育委員会の山本仁志教育長、鳥取看護大学の近田敬子学長、鳥取短期大学の松本典子学長をはじめ双方の関係者が出席しました。協定式後には第1回目の意見交換会を行い、今後より一層の連携を図ることを確認しました。





第43回倉吉打吹まつりに参加しました

◆「倉吉みつぼし踊り大会」

8月3日、鳥取看護大学・鳥取短期大学・附属こども園の学生と教職員40名が倉吉みつぼし踊り大会に出場し、みごと第1位を受賞しました。本番に向けた練習では、講師の先生をお招きし、練習をかさねてきました。当日は沿道からたくさんの声援をいただき、華やかな祭りの雰囲気のなか、楽しみながら踊ることができました。今後も地域の活性化に向けた活動に積極的に参加していきます。



◆「打吹天女コンテスト」

8月4日、打吹天女コンテストが倉吉市天神川河川敷飛天夢広場特設ステージで行われ、鳥取看護大学2年多田あみさん、鳥取短期大学生活学科 情報・経営専攻2年光旗美季さん、幼児教育保育学科2年松本美香さんが出場しました。ステージでは朗読、バルーンアート、歌など各々が趣向を凝らしたパフォーマンスを披露し、学生たちにとって思い出に残る経験になりました。

高齢者講座（若桜氷ノ山寿大学 健康づくり講座）開催

鳥取看護大学・鳥取短期大学では平成28年度から「高齢者向け生涯学習事業」として高齢者講座を開催しています。65歳以上の方を対象に「学び直し」の観点から、大学の知的資源を活用し、地域の皆様に学習の機会を提供する取組みです。本年度は、若桜町にお住まいの方を対象として5月・8月の全2回の健康づくり講座を開講しました。

第1回講座には、32名の方々が来学されました。学内施設の見学と食堂での昼食の後、鳥取短期大学 松本典子学長が、本学の教育の特徴や高年期の健康のための運動目標などについて講演しました。参加者からは「体を動かすことの大切さをわかりやすく説明していただき、やる気を起こす気持ちになりました」「学生一人ひとりに対応しておられて、すごく良い環境だと思いました」といった感想をいただきました。見学中には若桜町出身の学生と遭遇する嬉しい偶然もあり、終始明るく和やかな雰囲気の講座となりました。



とっとりプラットフォーム5+α共同研究

鳥取短期大学が取りまとめ校として取組む「とっとりプラットフォーム5+α」において、4つの課題に対する共同研究を計7件採択しました。共同研究事業では、鳥取県内の5つの高等教育機関の教員が代表研究者となり、他大学等の教職員とともに今年度から共同研究に着手しています。研究期間は1年間または2年間、1事業最大150万円の研究費助成を行います。

研究成果は、今後の行政施策への活用、社会貢献として地域へ還元していきます。また、今年2月から倉吉市、鳥取県看護協会、鳥取県社会福祉協議会も構成団体に加わり、計15団体で地域の活性化に向けた取組みをさらに強化していきます。

共同研究活動の推進

女性雇用

リスクマネジメント体制

社会人の学びやすい仕組みの導入と推進

少子化対策

地域へはばたく学生を PICK UP!

みつまち社会科見学リポーター

今年度、鳥取中央有線放送（TCC）で放映される「みつまち社会科見学」のリポーターを本学の学生が務めています。TCCは湯梨浜町・北栄町・琴浦町の3町を放送エリアとしたケーブルテレビ局で、この企画では、3町にある事業所の強みや魅力を紹介しています。4月から毎月1回収録を行い、学生ならではの視点でレポートを行っています。学生たちは、普段見ることができない事業所の裏側の紹介や、社長さんへのインタビューにも挑戦しています。

学生インタビュー

●国際文化交流学科2年
はない みほ
花井 美穂さん

●生活学科 情報・経営専攻2年
やまもと こうき
山本 康貴くん

Q. なぜリポーターをやってみようと思いましたか？

山本：学生の今しかできないことをやりたいと思ったからです。
花井：リポーターの仕事に興味があったことと、今後の自分の経験になると思ったからです。また、リポーターとしてさまざまな企業を見てみたい気持ちもありました。

Q. リポーターをしてみて大変だったこと・心がけたことは？

山本：ロケ当日はとても緊張しました。初めて行く事業所でのどのような質問をしたらよいのか悩みましたが、先方に失礼の無いように心がけました。
花井：私は特に緊張はしませんでした（笑）TPOに合わせて、接客関係の職場では明るく、静かな事務所などでは落ち着いたトーンのリポートを心がけました。



Q. 今回の経験を今後どのように活かしたいですか？

花井：私は放送関係に採用内定をいただいております。卒業後は番組制作に携わりたいと思っています。今回その一部を垣間見ることができ、卒業後の糧となりました。
山本：IT企業の営業職に採用内定をいただいております。今後さまざまなお客様と接する機会があると思います。今回、大学ではなかなか接することのない方たちと会うことができ、この経験を就職してから活かしたいと思います。

麻雀部

本学では平成30年度に麻雀部ができ、今年度は約20名の学生が所属しています。健康麻雀をモットーに麻雀を通して地域の方々と交流することをめざして活動しています。5月、7月には、三朝温泉三喜苑で利用者の方々と麻雀を通じた交流を行いました。

学生インタビュー

●国際文化交流学科2年
まつもと ゆうへい
松本 悠平くん（部長）

Q. なぜ、麻雀部をつくりましたか？

高校生のときから麻雀部をつくろうと友達と冗談で話していました。大学でみんなが楽しく過ごせる環境をつくりたいと思い実現させることができました。

Q. 地域で活動して思ったこと・感じたこと

普段、あまり接することのない世代の方々との交流で最初は緊張しましたが、喜んでもらえるのは嬉しいです。仲間だけでやるのも楽しいですが、地域に出て行くことで活動が広がりました。地域での活動が楽しみややりがいになり、部員たちにとっても目標づくりにつながるのではないかと考えています。

Q. 活動をして学んだこと

いろいろな人の話を聞く機会になりました。麻雀はコミュニケーションツールであることが理解できました。

Q. 今後どのような活動がしたいですか

麻雀を知らない人とも一緒にやってみたいです。地域での活動を今後もしていきたいし、後輩たちにも活動を続けてほしいと思っています。



●国際文化交流学科1年
さやま りょうと
佐山 凌都くん

Q. なぜ入部しましたか？

麻雀は未経験でしたが、4月のサークル紹介で部長の演説に惹かれました！

Q. 地域で活動して思ったこと・感じたこと

年配の方がどのような打ち方をするのかが興味がありました。最初はどのようにサポートしたらよいか緊張しましたが、麻雀をしながら昔の話を聞いて学ぶこともありました。年配の方とお話するのも好きです。

Q. 今後、活動をどのように活かしたいですか？

麻雀を通して先輩や他学科の学生との交流が生まれました。今後は、他大学との交流や地域での活動を継続していきたいです。

三朝温泉三喜苑 担当者さんインタビュー

Q. 麻雀部の活動はどうですか？

施設の利用者さんは、とても楽しみにしておられます。麻雀をしたのが30年ぶりという利用者さんは「また来てよ！」と学生さんに声をかけていました。麻雀を通じた交流は、職員にはできない関わり方だと思っています。利用者さんにとって施設の楽しみのひとつになっており、継続的に来てもらえたら嬉しいです。

